

一方、中央アジアでは発見はより「組織的」に行われていた。「トルコ人中の最初のムスリム」といわれるサトク・ボグラ・ハンの霊的教導を受けた一六世紀の聖者、ホージャ・ムハンマド・シャリーフは、サトクの墓を発見し自らその墓守となり、同時に墓に付設の修行道場で弟子を指導した。彼は又、諸処を旅して多くの墓を発見しており、聖者の墓を発見することが自らが聖者たることの要件であったとも言いうる。一七世紀のイルティシユ河流域では、「嘗てこの地で陣没した多くの殉教者」の墓が発見された。墓の発見は正しくイスラーム化の指標でもあった。

#### 第四三二回 五月二二日(火)

### インドのスーフイー聖者と政治権力

——中世の遺跡を通じて——

東洋文庫研究員 荒 松 雄  
東京大学名誉教授

#### 一 はじめに

1 インド史における宗教と政治権力。イスラムの浸透とスー

フイー聖者の役割。

2 考察資料としての史書、宗教文献。私の問題認識、遺跡を資料とする方法。

3 スーフイーの二派。「チシュティー」Chishtīと「スワラフルディー」Suhrawardī。

4 ビール・ピルとムリード・ムリド。ハリーフ・ア・カハフィフ。ジャマ・アト・ハナ jama'at Khānah、ハーンカー khānāh; ダルガー dargah

#### 二 チシュティー派スーフイー指導者の修道拠点とその環境

1 シ EIF Shaikh・モイースッディーン (ハワージャ・サーハブ) (アジメール)

2 クトウブッディーン (クトウブ・サーヒブ) (アジメール ↓デリー) 一二三六年没

3 ファリドゥッディーン (バーバー・ファリド) (アジョーダン) 一二六五年没

4 ニザームッディーン (N・オーリヤー) (デリー) 一二三二年没

5 ナスィールッディーン (ローシャン・チラーグ・デリー) (デリー) 一二三六年没

ムハンマド・フサイニー (バンデ・ナワーズ) (グルバル

ガー) 一四二二年没

付

スフラワルデイー派のスーフィー指導者とその修道拠点  
バハーウッデイン 一二六七年没、ルクヌッデイン  
一三三五年没(ムルターン)

三 スーフィー聖廟(ダルガー)と政治権力

——デリーの三大聖廟の場合——

1 スーフィー聖者の死とその墓。ダルガーの成立とその発展。中世の首都デリーの場合。

2 考察の方法——ダルガーの境内に残る墓、モスク、その他の建造物の調査。

3 デリーにおけるチシュティー派「三聖」のダルガーとその境内に残る建造物、墓

i シ EIF・クトウブッテイーンのダルガーの場合

ii シ EIF・ニザームッデインのダルガーの場合

iii シ EIF・ナスィールッデインのダルガーの場合

4 ダルガーの発展、拡大と集落の成立——デリーの三聖の場合——

四 近代史の中のスーフィー聖廟

——パキスタンとインド連邦の場合——

1 ムスリム社会におけるダルガーの地位——正統派ウラマー、

彙 報 荒

民衆、政府の対応

2 パキスタン政府によるラホール、ムルターンのダルガーの管理

3 アジメールのハワージャ・モイーヌッデインとインド政府の対応

4 デリーの三大聖廟の場合——その現状の一端——

5 インド、パキスタンの政治状況の変化と今後の問題

付 デリー・サルタナット及びムガル王朝  
1 デリー・サルタナット(デリー・スルターン政権、デリー諸王朝)

① 「奴隸王朝」一二〇六—九〇 ② ハルジー朝

一二九〇—一三二〇 ③ トウグルク朝 一三二

〇—一四一三 ④ サイド朝 一四一四—一五

⑤ ローデイー朝 一四五—一五二六 (スール

朝 一五三八—五五)

2 ムガル帝国(皇帝一七代)

① ムガル初期 初代バーブル 一五二六—一三〇 二代

フマユーン 一五三〇—五六

② ムガル最盛期 三代アクバル 一五五六—一六〇五

四代ジャハーンギール 一六〇五—一六二七 五代

シャー・ジャハーン 一六二八—五七 六代アウラ

シグゼーブ 一六五八—一七〇七  
ムガル後期(一七〇七—一八五八) 七代シャー・アー  
ラムⅠ世 九代ファッラーフスィアル 一二代ムハ  
ンマド・シャー 一五代シャー・アーラムⅡ世 一  
六代アクバル・シャー 一七代バハドゥール・シャー  
Ⅲ世(一八三七—五八) ランゲンで獄死  
(当田展示のイラスト及び地図・図面は省略)

# 参考文献の一部

- Saiyid Ahmad Khān, *Athār al-Sanādīd*. Lakhnau (Lucknow), 1847 (1st ed.), 1854 (Rev. ed.)  
Archaeological Survey of India, Government of India; *Delhi Province. List of Muhammadan and Hindu Monuments*, 4 vols., Calcutta, 1916-22.  
Bashir al-Din Ahmad, *Waqi 'at-e Dār al-Khulūmat-e Delhi*. (Eng. title: *History of Delhi the Imperial City, A Most Comprehensive Account of the History and Archaeology*. Ⅲ vols., Delhi, 1924.  
Maulvi Muhammad 'Ālam Shah Dehlavi, *Mazārāt-e Auliā'-e Delhi*. Delhi, 1331AH.  
山本達郎『荒 松雄』月輪時房『デリー、デリー諸王朝時代の建造物の研究』三卷 一九六七—七〇年：東大東洋文化

研究所、第一卷「遺蹟総目録」、一九六七

J. A. Subhan, *Sufism, Its Saints and Shrines*. 1938, Lahore, Rev. ed. New York, 1970.

*Khaliq Ahmad Nizami, Some Aspects of Religion and Politics in India During the Thirteenth Century*. 1961, Muslim University of Aligarh. Aligarh.

R. E. Frykenberg (ed.), *Delhi through the Ages, Essays in Urban History, Culture and Society*. Delhi, 1986.

荒 松雄『ヒンドゥー教とイスラム教——南アジア史における宗教と社会——』一九七七年、岩波新書

荒 松雄『インド史におけるイスラム聖廟——宗教権威と支配権力——』一九七七年、東大出版会

荒 松雄『中世インドの権力と宗教——ムスリム遺跡は物語る——』一九八九年、岩波書店

荒 松雄『多重都市デリー——民俗、宗教と政治権力——』一九九三年、中公新書

荒 松雄『ムスリム支配下における(インドの)宗教と政治権力』『世界歴史』岩波講座 一三『一九七一年